

り、すべての市町村に地域水田の農業ビジョンの策定を求められております。まず、このビジョンについてお尋ねをしたいと思えます。まず、21世紀の揖斐川町の農業の展望をどこに見出すのか。行政のかかわりの中で揖斐川町らしさを出す具体策はどのようなお考えになっておられますか。そして、そのビジョンの農家への周知はどのように進められておりますか。

2点目、揖斐川町にとって農業は基幹産業の一つであり、また農業に携わる人々が安全で安心して農業に打ち込める環境をどのようにつくっていくのか、環境づくりについてのお考え方、以上2点についてお伺いいたします。

答 宗宮孝生町長

揖斐川町の耕地面積は1千844ヘクタールでございます、標高が四、五十メートルから600メートルといった山間地域まで高低差の著しい地域にあり、きれいな水、澄んだ空気、美しい景色など豊かな自然や緑と大地を生かしつつ、農業の喜びを感じ、地の利を生かした農業づくりを目指してまいりたいと考えております。平たん地域につきましても、水田営農の効率的かつ安定した農業経営を実現するため、良質米地帯の特性を生かした売れる米づくり

の計画的生産とあわせて、麦、大豆など生産性の高い土地利用型農業の推進とともに、地域の合意形成による土地利用調整や作物品種ごとの団地化、あるいは営農組織などによる低コスト、省力で効率的な水田営農の促進に向けた取り組みが必要であると思っております。また、お茶、薬草、イチゴ、野菜などの特産品の生産拡大を支援するとともに、農業や化学肥料の使用を低減し、安全・安心・健康に配慮したぎふクリーン農業を推進し、産直販売、消費者交流などを通じて新たな販路を拡大するなど、多様な農業経営の推進を図りたいと考えております。一方、山間地域におきましては、小菊とかアザミ、薬草など、特産品の推進を図るとともに、新規作物としてヤーコン、それから今年から実証をしておりますレッドビート、実バラなどの実証栽培を行い、新たな特産品、加工品づくりに向けた高付加価値農業に取り組んでまいりたいと考えております。次に、農業は基幹的な産業であり、農業に従事する者が希望の持てる条件を整備・構築する必要があります。現在、農業に従事し、大きな役割を担っている女性、高齢者などの農業活動が継続的に取り組める環境づくりを進めるとともに、地域の農業を支える担い手をどのように育成するかなどを集落ぐるみで話し合い、その中で小規模農家や兼業農家も担い手となり得る集落営農の

組織化、法人化などを推進し、効率的・創造的な幅の広い地域営農体制の確立を図っていく必要があると考えております。その具現化に向けて地域水田農業推進協議会や関係団体などとの連携を、あるいは協議を重ねて今後進めてまいりたいと考えております。

山本猷治議員

問 「自然と歴史が育むふれあいと活力のある健康文化都市」を目指す具体的な内容について

合併づくり計画ダイジェスト版には、新しい町の将来像として「自然と歴史が育む ふれあいと活力ある健康文化都市」とあります。そこで、町長にダイジェスト版に記載されている中から二、三点質問したいと思えます。

3月の議会だったと思いますが、コミュニティバスの、これはワンコインかツーコインかわかりませんが、本日も、運行を口にされましたが、本当に実施される意思があるか否か、あるとすればいつごろを予定されているのか、これについてまずお答えください。

そして文化のまちづくりに関連してですが、町内にはさまざまな歴史

や伝統文化があります。揖斐祭りの子供歌舞伎しかり、谷汲踊、夜叉ヶ池物語等々数えればきりがありません。そこで、いま一つ文化のまちづくりにぜひ加えてほしいものがあります。久瀬の小津白山神社、日坂の春日神社所有の能面を使つての薪能ということですが、小津白山神社には26とも言われておりますし、27とも言われておりますが、それから日坂の春日神社には21の古い能仮面があります。

そこで提案ですが、今年、来年とは言いません。近い将来、揖斐川のほとりでそういう薪能が開催できるように、行政として復活に努力してほしいと思いますので、町長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

答 宗宮孝生町長

コミュニティバスの運行でございますが、現在、久瀬地域、あるいは坂内地域においては、既存の自主運行バスが運行されていない交通空白地帯となっている地区に対し、スクールバスや福祉バスを活用して住民の皆さんの生活の足の確保をしているところでございます。また、揖斐川地域におきましては、老人福祉センターまで福祉バスを走らせているところでございます。合併に当たり作成された新町建設計画において、公共交通ネットワークの整備につい